

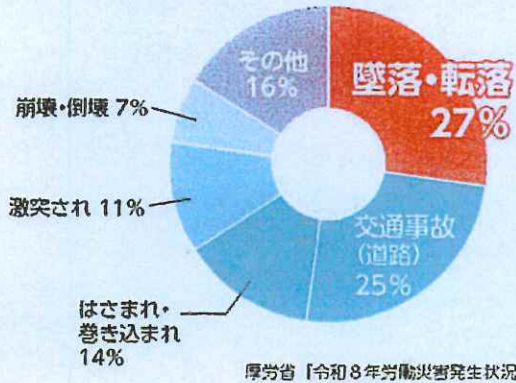
一命取る 1メートルの危険

「墜落・転落」の現状は…

「墜落・転落」の発生件数は減少傾向にありますが、型別の死亡数では依然としてトップとなっており、その危険性は極めて高いものです。

足場や建築物の屋上・屋根といった高所だけでなく、脚立など1メートルほどの低所まで、どの高さでも墜落・転落による死亡事故が発生しています。日頃の作業にどのような危険があるのか、正しく把握し安全対策をとりましょう。

令和7年 死亡災害 型別死亡者の割合



「1メートル」の衝撃とは

安全衛生の分野には「1メートルは一命取る」という有名な評語があります。たった1メートルの高さからの墜落・転落でも死亡事故が起こる危険性を秘めているという警句です。

立ち止まった状態から転倒し頭を直撃した場合、頭部には瞬間的に2トンもの衝撃がかかります。直立状態であれば、手や足をついて力を分散させることができますが、台やイスからの転落で、身動きがとれずに地面に激突すれば、命にかかわる大事故につながるのです。まさに「一命取る」危険です。

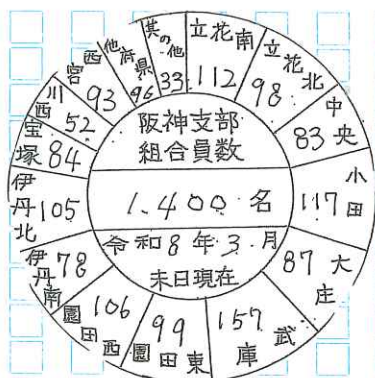
※「力学的人体損傷に関する基礎研究-1：日常的空間に於ける機械と人との共存リスク見積もり」松浦弘幸ら



保護帽で身を守れ!

保護帽には「飛来・落下物用」と「墜落時保護用」の2種類があります。「墜落・転落」のおそれがある作業では、必ず「墜落時保護用」を着用しましょう。1メートルの高さからの転落で頭部にかかる衝撃を比較すると「墜落時保護用」は「飛来・落下物用」の2倍以上の効果があります。

「墜落時保護用」の保護帽には、衝撃を吸収する衝撃吸収ライナーがあり、大きな衝撃を吸収し、頭部を守ってくれます。



花見
 4月5日支部主催で
 花見を行いました。
 場所は支部事務所近
 くの上的森公園。参加
 者は4名でした。
 前日は天候も悪く暗
 かったので当日は晴
 間も見えずおぼろの花
 見日和でした。